

## 自主防災組織を 結成しませんか

『自主防災組織』とは、地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚や連帯感に基づいて、自主的に結成する組織です。

大規模な災害が発生した場合、市や防災関係機関は総力を挙げて災害応急活動に取り組みます。

しかし、大規模な災害では、道路の寸断や建物の倒壊、火災、電話の不通、断水、停電などさまざまな災害が広範囲で発生します。

また、防災関係機関そのものが被災者になることも考えられます。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、生き埋めや建物などに閉じ込められた方のうち、自力による脱出や家族・隣人によって救助された方が約95%を占め、専門の救助隊に救助された方は1.7%程度しかないことが分かっています。

災害発生直後、被災者を助けることができたのは、同じ地域に住む方がたでした。

これは、大規模な災害が発生した場合、防災関係機関の対応に限界のあることを物語っています。

このような状況で、被害を最小限に抑えるためには、地域住民の連帯意識に基づく『自主防災組織』を結成し、市民自らが出火防止や初期消火、被災者の救出・救護などの活動を行うことが必要です。

### 自主防災組織の活動

#### ◎平常時

- 講習会や研修会、印刷物などによる防災知識の普及
- 地域の危険箇所や避難経路の確認
- 防災器具の準備・点検
- 消火や避難などの防災訓練の実施
- 災害時要援護者の把握と救出体制の整備
- 水や食糧の備蓄

#### ◎災害時

- 自主防災本部を設置し、情報収集伝達体制を確立
- 出火防止
- 初期消火
- 救出・救護
- 避難誘導
- 給食・給水



▲防災訓練

防災に関するお問い合わせは

**総務グループ**  
**(☎85) 1 1 3 0**

## クッタラ（登別）火山防災マップ

クッタラ火山は、気象庁ではランクC（※2）の活火山に分類され、登別火山とも呼ばれています。

活火山とは1万年以内に噴火した火山や現在活発な噴気活動のある火山で、クッタラ火山は現在も活発な噴気活動や地熱活動を続けています。クッタラ火山の最新の噴火（水蒸気爆発）は約200年前に起きており、その時よりもやや大きな規模の噴火を想定して、火口想定域や噴石が飛んで来る範囲、火山灰の降灰域、火山泥流の広がる範囲などを図示して

います。

※2

ランクA：この100年間に数回、もしくはそれ以上噴火歴がある危険度の高い火山

ランクB：この100年間に1回程度の割合で噴火や群発地震が発生している火山（ランクAを除く）

ランクC：この100年間に噴火はしていませんが、噴煙などの火山活動が観測されたことのある火山（ランクA、B以外の火山）



▲クッタラ（登別）火山防災マップ